

## 小千谷の人々の生活を彩る「絵紙」



「絵紙」とは小千谷の言葉で「浮世絵」、特に多色刷りの木版画である「錦絵」のことをいいます。江戸時代に高級な麻織物の一種である小千谷縮の生産が始まり、その取引のために江戸を訪れた行商人たちがお土産として浮世絵を買い、小千谷に持って帰ってきたものといわれています。そして、いつの頃からか、小千谷では雛祭りの際に浮世絵を横三枚、縦四から五段につなげて壁掛け状にしたものや、屏風に仕立てたものなどでお雛様のある部屋を飾るといふ風習が生まれました。

3月の小千谷はまだまだ雪深く、除雪技術の発達していなかった時代は家の中は薄暗かったそうです。せつかくの雛祭りを少しでも明るい雰囲気にしたという思いがこのような風習につながったのだと言われています。

浮世絵に描かれている内容が一番多いのは当時のスターであった歌舞伎役者や相撲取りの絵。そして、明治期になると鉄道の開通や新しい洋風建物など、文明開化の様子がうかがえるものが増えてきます。ほとんどの浮世絵が雛祭りの時期にだけ飾られていたことから、退色することなくお雛様と一緒に家々に伝わってきました。

浮世絵と言えば現代では、美術品としての価値が高まり、少し遠い存在となっていますが、江戸や明治の人々にとっては、手にとって眺めたり飾ったりと日常にある身近な存在でした。小千谷の浮世絵も、人々の生活に溶け込み、毎年の雛祭りに飾られてきたことから、今でも浮世絵が「普通」にあるものと思っている人が小千谷には多いようです。そんな浮世絵を小千谷の人は親しみをこめて「絵紙」と呼んでいます。

今年度は次のイベントで、実際の絵紙を見ることが出来ます。小千谷に大切に伝わってきた絵紙に会いに行かれてみてはいかがでしょうか。

8月30日(火)～9月11日(火) 小千谷に伝わる「絵紙」展(仮)  
会場 小千谷市民学習センター楽集館(小千谷市上ノ山4-4-2) 無料 水曜休館  
☎小千谷市生涯学習課管理係 ☎0258-83-0077

## 小千谷の宝を見にいこう!

### 片貝まつりと小千谷の魅力体験ツアー

9月8日(土)～10日(月) 2泊3日

世界最大とされる4尺玉が打ち上げられることで有名な小千谷片貝花火大会。貴重な棧敷席からこの花火大会を堪能できるツアーを開催します。

花火大会のほか、小千谷縮の機織りや野菜の収穫体験、地元の方々との交流会など小千谷の魅力まるごと体験できるツアーです。上のコラムで紹介した浮世絵の展覧会も観覧予定です。

- 内容 花火観覧、織物体験、野菜収穫体験、浮世絵観覧、現地交流会ほか
- 参加費 20,000円(往復バス代、食費、宿泊費、体験料、保険代含む)
- 定員 25名(申込順)
- 申込期限 7月13日(金)



☎5378-8833 園杉並区交流協会

## 岡田紅陽写真美術館

山梨県南都留郡忍野村忍草2838-1

☎0555-84-3222

🌐shikinomori.webcrow.jp/

### 小池邦夫絵手紙美術館併設

- 開館時間 10:00～17:00(入館は閉館30分前まで)
- 休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)12/28～1/1その他臨時休館あり
- 入館料 一般500円、中学生300円(小学生以下無料)
- アクセス 富士急行線富士山駅よりバス(内野行または平野行)で15分(忍野しのびの里下車)、中央自動車道河口湖ICから約15分

富士の写真家 岡田紅陽が写した、当時の日本の風景

千円札や旧五千円札の裏側に印刷されている本栖湖に映る富士山の図柄はおそらくご存じな方も一度は目にしたことがあると思います。

この図柄の基となっているのは写真家の岡田紅陽の作品「湖畔の春」です。紅陽は若くして富士山に魅せられ、山梨県の忍野村に別荘を構えて毎年撮影に訪れていました。「村内で撮影をしていると子どもたちに囲まれる」「農家の縁側で住民とお茶をしている」と忍野村の方々とても良い関係だったそうです。そんな縁があり、忍野村には紅陽の写真を展示する岡田紅陽写真美術館があります。プリントされた写真だけで300点以上、フィルムやガラス乾板を含めると数万点を収蔵しておりその中から常時50点ほどの作品を鑑賞することができます。

紅陽の写真はとても雄大で、撮影から半世紀以上たった今見ても圧倒される迫力があります。また、当時の日本の風景を写しているという意味でもとても興味深いものです。



霜枯(昭和5年12月撮影)



湖畔の春(昭和10年5月2日撮影)

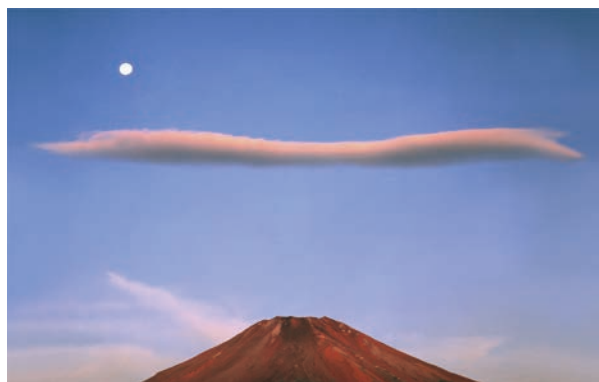


山吹(昭和17年11月撮影)



### 岡田紅陽写真美術館 企画展①

#### 富塚晴夫写真展「富士きよなる」



一文字/撮影 富塚晴夫

7月12日までは写真家の富塚晴夫氏の展覧会を開催しています。ハリウッド在任時にマイケル・ジャクソンなど数多くの俳優やミュージシャンの撮影をしていたという経歴を持つ富塚さん。現在は忍野村のお隣山中湖村にスタジオを構え、風景写真を中心に撮影を行っているそうです。学芸員の垣中さんによると「富塚氏の写真は繊細できれいであり、見ていて癒やされる感じがする。また、カラー写真であるため現代的な富士山写真です。」とのこと。フォトナというアクリル板に直接印刷する手法を取り入れており、透明感があり色の美しい写真を見ることが出来ます。

### 岡田紅陽写真美術館 企画展②

#### 高砂淳二写真展「Dear Earth」

7月14日から9月17日までは高砂淳二氏の写真展を開催します。5大陸、3大洋をすべて回って世界各地の絶景を写したものを。紅陽の写した絶景の富士とともにご鑑賞ください。



撮影 高砂淳二



蜻蛉文様蒔絵螺鈿櫛 江戸後期



葵祭り金銀珊瑚翳甲櫛 江戸後期



長崎出島風景図葡萄ガラス絵櫛 江戸後期



ギヤマン囀甲櫛 江戸後期



蜻蛉文様水晶玉簪 昭和時代

臺草文様蒔絵回扇形象牙簪 春眠 江戸時代

## 櫛・かんざし美術館

東京都青梅市柚木町3-764-1

☎0428-77-7051

🌐kushikanzashi.jp

- 開館時間 10:00～17:00 (入館は閉館30分前まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)年末年始、その他臨時休館あり
- 入館料 一般600円、学生500円、小学生300円、区民割引あり (住所確認資料提示)
- アクセス JR青梅線沢井駅下車徒歩10分、中央自動車道青梅ICから約30分

御岳渓谷の散策とともに 2つの美術館で日本の美を感じよう

杉並と近い交流自治体、東京都青梅市の御岳渓谷には二つの小さな美術館があります。その一つは櫛・かんざし美術館。江戸から昭和初期までの櫛やかんざし(簪)を中心に、小籠や矢立(携帯用の筆記具)の展示を行う日本で唯一の美術館です。小さな櫛の中に描かれる世界は当時の職人さんの高い技術と遊び心に満ちあふれています。

もう一つは明治・大正・昭和の時代に活躍した日本画家の川合玉堂の作品を展示する玉堂美術館。玉堂は1944年に疎開のため現在の青梅市の御岳渓谷に移り住み、1957年に死去するまでを過ごしました。館内に展示される作品の中には当時の御岳渓谷を描いたものも数多くあります。また、生前の川合玉堂と岡田紅陽(左項記事参照)は交流があったそうで、今の杉並の交流自治体同士として不思議なつながりを感じます。

玉堂美術館は庭園がとても美しく、櫛・かんざし美術館は館内から見る御岳渓谷の景色が日本画のように見えるなど、館自体にも多くの見どころがあります。両館とも季節に合わせて展示替えをしており、館の間は御岳渓谷の遊歩道を歩いて20分ほどですので、散策してみるのもオススメです。



柳若葉(昭和31年)



夏川(昭和27年)

## 玉堂美術館

東京都

青梅市御岳1-75 ☎0428-78-8335

🌐www.gyokudo.jp

- 開館時間 10:00～17:00 (入館は閉館30分前まで)、12～2月は16:30閉館
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)年末年始、その他臨時休館あり
- 入館料 一般500円、学生400円、小学生200円、区民割引あり(住所確認資料提示)
- アクセス JR青梅線御嶽駅下車徒歩5分、中央自動車道青梅ICから約40分